

新明和が高機能搭乗橋

雨水溝と伸縮機構遮蔽

新明和工業は浸入する雨水を排出するガーター（溝）と伸縮機構のトンネルレールを可動カバーで遮蔽（しゃへい）する航空旅客搭乗橋を業界で初めて開発した。足や車いすが溝に詰まる事故、露出したレールの潤滑剤による通行面の汚れを防げる。通行面を床下面の上に設けて溝とトンネルレールを覆うフルフラット型搭乗橋に比べ価格を約10%低減。安価で上質・高機能な搭乗橋として、2030年度までに300基の受注を目指す。

安全で保守費用軽減



開発したのは、勾配1/3体からなり、大きな箱に小さな箱が出入りし伸縮する。伸縮する際の滑り面がトンネルレールで、伸縮箇所にかバーを固定する技術は難しく競合他社は手がけていない。新明和工業は伸縮と同期して動く可動カバーを考案し、ガーターレス型を可能とした。これにより、比較的安全なスタンダード型搭乗橋より多少高額なバ

▲ガーターレス型の試作機（右側、左は溝とレールが露出する従来機）

リアフリー型にかバーを装備すれば、最上位のフルフラット型と同じくガーターとトンネルレールを遮蔽できる。レールの潤滑剤は踏むと通行面が汚れ、清掃も必要。このため、保守費用の軽減を求める海外の航空会社から開発ニーズが寄せられていた。リアフリー型だけでも通行面の安全性は高まるが、清潔感のある上質さと保守費用軽減の価値を付加できる。

新明和はガーターレス型の開発に伴い、播磨工場（兵庫県小野市）に試験機、宝塚工場（同宝塚市）に雨水排水試験装置を導入。多様な条件で異なる雨水の流れ方を検証する試験を実施し、信頼性と安全性も確かめてきた。新明和は搭乗橋事業でアジアと国内のトップクラス。

新明和は搭乗橋事業でアジアと国内のトップクラス。